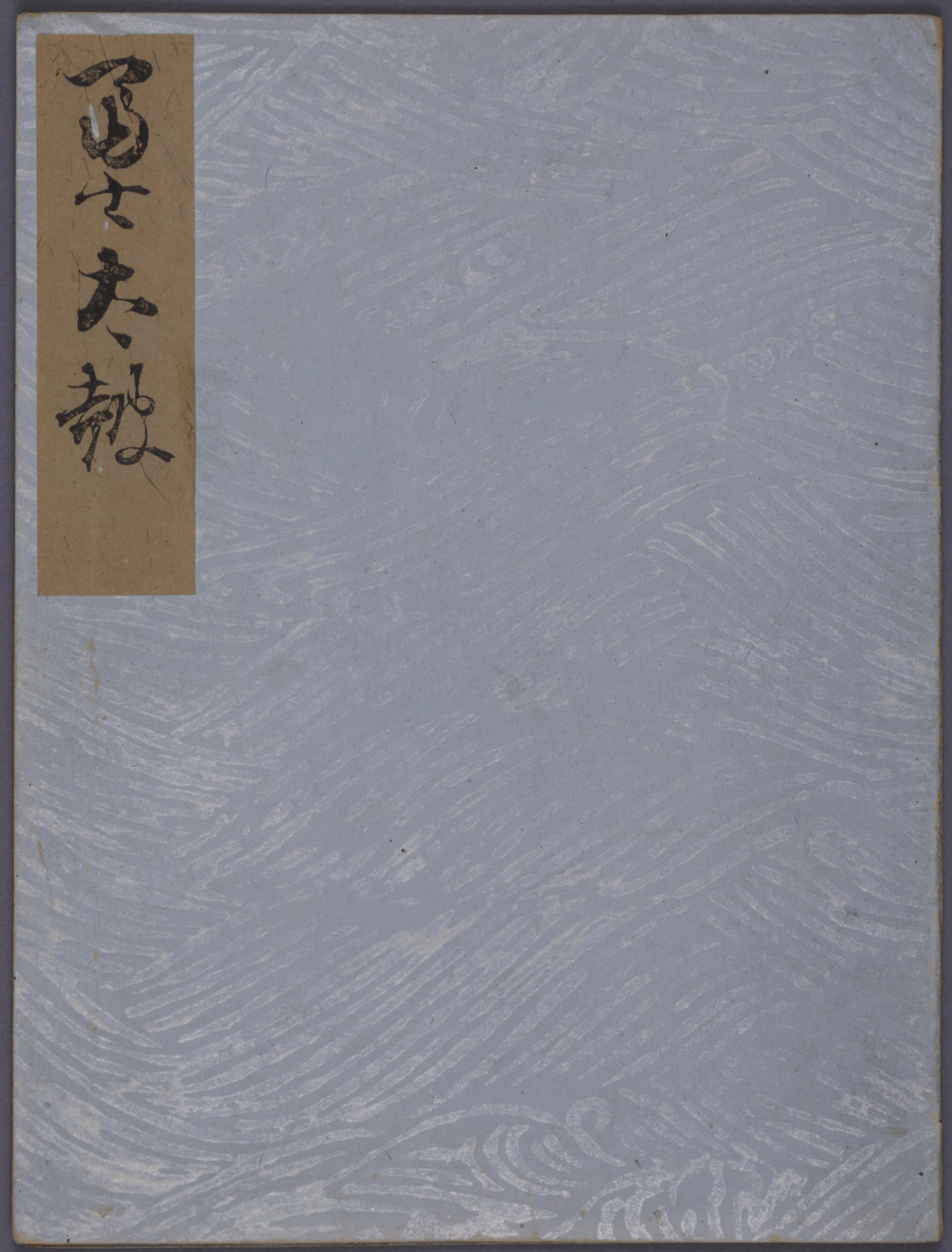

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-001

国立国会図書館

中詞

持て来れハ藤原院に侍る人を宗
臣下なれどもも内裏に七日許
祭孫乃清座ハ去冒天王寺より
あそこまゝ中楽人ごゝ我無なるひ
なる太鼓乃上手小さくハ我めし
上をゝ我太鼓乃役を仕ハ所に
住者より富士と中楽人ごゝ我も

書 17.10.-6 国会図

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-002
国立国会図書館

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-003
国立国会図書館

太鼓乃上手にて以ゝの祭祭乃
役を重ね上手にて以此由ゆ召ま
富士洗習何まも面白幾必なるを
さ事なりし古お哥に（下カル）信濃なる
あさまの嶽もと極る此ゆへ左
詞
富士乃煙ありひやなりしを此
ゆゝ時ハ必ようり無なるし

なわともに洗習ハまさふ行る此
勅諭をしにより重て富士と
中も此ゆ成所くんに洗習此由をゆ
ゝ永々き富士の振舞の所とてば
宿所に押よをぞ其なる富士成
討てんに洗ゝ不便乃次第少て作
ゞしこの申わ此なるを有はまし

しも我までハはるゝ見を
侍りハさりや蛍なん　雲み上
我を恨みてく冨士乃が悪を
思ひ　是ハ津乃國住吉濃楽人
冨士と申人若濱まや子まて作
さても内裏ニ七日乃管絃の
ましましゝわか天王寺よりま

楽人名誉乃曲を申さんとて
妻も太鼓乃役世小隠那き富士ち
皆ミやまそやまよ都へ上りし
夫乃名ある夢心にかゝる旅月乃雨
有戚き家袖の涙をありしまゝ
たる形見　袖にしほれぬまゝ入り
おもひにて雲井やまわしる

故ハ、あとな秋や住吉乃松の
ひまよわなり其まゝ月落かゝる
山城もりや在はくゝ笠我ぬ貴
バ幡ふ祈里のけかひ乃其ゆゑ
契孫愛なるてゞ清ゝにあふや
男山都よりや冬裏よくわく
ゆしのゆわとアハ何くにかそ

兄よは扨是ハふしの為何少く
渡里ゆう恥しなりし妻や
子ふくん なふ富士を討まて
はよ何是ふしを討またる也
作や中々乃す富士を洗留に
討まてゆう さゝ秋をさう思ひ
あたをし着乃うゝ重て是はく

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-005
国立国会図書館

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-006
国立国会図書館

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-007
国立国会図書館

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-008
国立国会図書館

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-009
国立国会図書館

瞋恚乃ほのをハ太鼓烽火乃
天にあがれハ雲の上人の
みはしにたゝれもまひて
吉野乃桜四方廻りの数々と
めぐりてぞ太きは手をひ日手も
伶人楽鉦な拍子太鼓乃風くハ
本よりゆする松乃音さすらし

しらだたくひあやかなりしや
さまりや女人の悪心ハ瞋恚の雲
晴て五常楽を打給へ　修羅乃
太鼓ありちやこぬばこそ君が御前
千秋楽とうたふよさそまつる
ちよや万代とたえもきこへて
安穏に　太平楽をうつゝかよ

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-011
国立国会図書館

国立国会図書館

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-012

国立国会図書館

[謡本] 富士太鼓 1冊 WA7- 080-013

国立国会図書館